



古河のそば × 生産者の声

自然の力を生かした  
そばを届けたい

一稻宮一 (旬)倉持農園サービス  
倉持隆一さん(46)

**倉** 持さんのこだわりは、無施肥(無肥料)栽培と自家採種。環境にも配慮し、余計な肥料や農薬を使用しない土本来の力を引き出す栽培方法を採用しています。令和2年度には、茨城県そば共進会個人の部で最優秀賞となる茨城県知事賞、全国そば優良生産表彰事業で農林水産省政策統括官賞を受賞しました。

入手が難しい「常陸秋そば」をより多くの人に食べてほしいという気持ちと、そばの生産に適している環境を生かして、さまざまなニーズに合ったそばの栽培にも力を入れていきます。また、高い品質のものを安心して口にしてほしいと、衛生面でも安全を意識した生産工程を守り続けている倉持さん。製粉会社へ卸すほかに、地元の人にも食べてほしいという思いから道の駅でも販売を行っています。最近ではその努力が実り、口コミなどでも評判が広まってきているそうです。

これからもおいしいそばを届けるために安心・安全を意識しながら、品質の向上と気候変動に強いそばづくりに励みます。

常陸秋そばの魅力を  
伝え続けたい

一東山田一 (株)荒川アグリ  
荒川一幸さん(66)

**荒** 川さんが栽培する「常陸秋そば」は、野菜なども栽培する栄養価が高い土壌の畑を使うため、甘みがあり、そば本来の香りともちもちした食感が特徴です。令和3年度には、茨城県そば共進会個人の部で最優秀賞となる茨城県知事賞、全国そば優良生産表彰事業で日本麺類業団体連合会会長賞を受賞しました。

荒川さんがそばの栽培を始めたのは平成4年のこと。水に弱くデリケートなそばの生育に苦労したこともありましたが、しかし、自身がそば好きだったこともあり、おいしいそばを一人でも多くの人に広めたいという一心で今日まで栽培を続けてきました。また、地域の人を自宅に招いてのそば打ち教室や八俣小学校でそば打ち体験教室を行うなど、そばを通じた地域貢献も行っています。

昨年からドローンを活用し、坂東地域農業改良普及センターと協働して収穫量を上げる実証試験も行っている荒川さん。今後は、農業のスマート化と後継者の育成を通して、おいしいそばをいつまでも提供できる環境づくりに努力していきます。